

令和8年8月19日

エディオンピースウイング広島にて
「多様な世代が集う交流拠点としてのスタジアム・アリーナ」表彰式、
スポーツコンプレックスの推進に関するシンポジウムを開催します

スポーツ庁は、これまで経済産業省と共同でスタジアム・アリーナ改革を推進しており、改革のモデルとなる「多様な世代が集う交流拠点としてのスタジアム・アリーナ」について、令和7年度に選定した2拠点の表彰式を開催いたします。

併せて、スタジアム・アリーナ改革をさらに発展させた概念であるスポーツコンプレックスの推進に関するシンポジウムを開催いたします。（同時発表：経済産業省）

1 表彰式・シンポジウム概要

（1）日時 令和8年9月3日（木）11:30～18:00（予定）

（2）場所 エディオンピースウイング広島（広島県広島市中区基町15-2-1）

（3）スケジュール

時間	主なプログラム
11:30～12:30	【スタジアムツアー】
13:30～14:45	【表彰式】 ・主催者挨拶（スポーツ庁長官 河合 純一、経済産業省 商務・サービス審議官 井上 博雄） ・選定施設によるプレゼンテーション など
14:45～15:15	記念撮影、休憩
15:15～17:00	【シンポジウム（オンライン生配信有り）】 ・主催者挨拶（スポーツ庁長官 河合 純一） ・基調講演 「地域とともに歩むスポーツ～サッカーを通して学んだこと～」 ・パネルディスカッション 「地域と共創する持続可能なスポーツコンプレックス」
17:00～18:00	【ネットワーキング】

（4）受賞施設：三河安城交流拠点（アリーナ）（愛知県安城市）

GLION ARENA KOBE（兵庫県神戸市）

(5) 基調講演登壇者：スポーツジャーナリスト 中西 哲生 氏
〈プロフィール〉

1992 年、同志社大学経済学部卒業後、1992～1996 年 J リーグ名古屋グランパスエイトに所属。1995 年シーズンには、アーセン・ベンゲル監督の下で天皇杯制覇。1997 年に川崎フロンターレに移籍、キャプテンを務め、2000 年に J1 昇格を果たす。2000 年いっぱい、現役引退。

2023 年より筑波大学蹴球部テクニカルアドバイザー就任。

(6) パネルディスカッション登壇者

・モデレーター：信江 雅美 氏（広島経済大学 客員教授）

・パネリスト（五十音順）：

小宮 潤 氏（株式会社中国新聞社 地域ビジネス局 ソリューション推進室長）

森崎 和幸 氏（株式会社サンフレッチェ広島 育成担当 兼 育成スカウト）

若狭 利康 氏（エリアプラットフォーム・カミハチキテル代表） 他 1 名

2. 取材について

取材を希望される場合は、令和 8 年 9 月 1 日（火）17:00 までに下記申し込みフォームより御登録をお願いします。

公開範囲はスタジアムツアーからシンポジウムとし、シンポジウム後に囲み取材（対応者：スポーツ庁長官 河合 純一）を実施します。ネットワーキングは取材不可となります。

[スタジアム・アリーナ表彰式およびシンポジウムに係る取材申し込みフォーム](#)



3. 集合場所

エディオンピースウイング広島 4 F ビジネスラウンジ

4. その他

諸事情により、登壇予定者や時間の変更等の可能性がございます。あらかじめご了承ください。

＜担当＞

スポーツ庁 電話：03-5253-4111（代表）

参事官（民間スポーツ担当）付

参事官補佐 森山 健 （内線3942）

(参考資料 1)

令和 7 年度選定先における評価ポイント

◇ 三河安城交流拠点（アリーナ）

【概要】

- ・ シーホース三河(株)が設立した建設募金団体が調達した資金を利用して、(株)アイシンの工場跡地にアリーナを建設後安城市に寄贈（負担付き寄附）し、三河アリーナ(株)が運営・管理する事業

【評価ポイント】

- ・ 当初の「企業の福利厚生」から「地域課題への対応」へと舵を切り、行政とも連携しながら、民間主導で地域課題に取り組む姿勢は、地方におけるアリーナ建設のモデルケースとなり得る。
- ・ 運営会社がエリアマネジメント会社を目指す点も、今後のスポーツコンプレックスや地域マネジメントの議論に通じ、先進的な事例となる。

◇ GLION ARENA KOBE

【概要】

- ・ 神戸市から貸与された土地に NTT 都市開発(株)がアリーナを建設し、(株)スマートバリューと(株)NTT ドコモが出資した(株)One Bright KOBE にて運営・管理する事業

【評価ポイント】

- ・ 神戸ストークスとの一体経営を軸に、貸館と自主事業のバランスの取れたビジネスモデルを構築している点、神戸のまちづくりに貢献している点が高評価。
- ・ プロバスケットボール興行や音楽興行に加え、非興行日の活用や自主事業における注カイベントを組み合わせ、賑わいづくりと売上増加を目指した柔軟な経営方針も投資回収の実現に寄与。

(参考資料2) スタジアム・アリーナ改革とは

- スタジアム・アリーナ改革は、スポーツの成長産業化の大きな柱。
- これまでの、コストセンターであったスポーツをするための施設ではなく、観るスポーツのためのスタジアム・アリーナの整備を進めることにより、定期的に数千人、数万人の人々を集客する、プロフィットセンターへの変革を進め、地域活性化・街づくりの起爆剤となる施設とすることを目指す。

現状



単機能型
行政主導
郊外立地
低収益性

→
→
→
→

多機能型
民間活力導入
街なか立地
収益性改善

目指す姿



「スマート・ベニュー®」
(株) 日本政策投資銀行

スタジアム・アリーナの定義

- 数千人から数万人の観客を収容する集客施設
- スポーツを観ることを主な目的とした施設

コストセンターからプロフィットセンターへ

- 地域住民がスポーツをする施設とスタジアム・アリーナを区別。観客の利便性やチームの営業活動を重視。
- 施設の収益性の向上による公的負担の軽減
- にぎわいの創出や持続可能なまちづくりの実現等、投資以上の効果を地域にもたらすことがプロフィットセンター
- 事業方式や資金調達の検討を通じ、施設・サービスの充実・向上

スタジアム・アリーナ改革による地域への効果

- 地域のシンボル
 - ・民間ノウハウの活用と収益性の確保
 - ・サステナブルな施設として長期的に存続
- 新たな産業集積の創出
 - ・周辺産業への波及を含む経済効果、雇用創出
 - ・スポーツチームがあればより継続的に
- 地域への波及効果を活用したまちづくり
 - ・まちの賑わいの創出
 - ・地域住民のスポーツ機会の増加
 - ・社会貢献活動や啓発等の社会問題の解決
- 地域の持続的成長
 - ・地域のアイデンティティの醸成
 - ・地域の不動産価値の向上

(参考資料3)

多様な世代が集う交流拠点としての スタジアム・アリーナ選定拠点MAP

-全21拠点-

● 設計・建設段階に選定 (14件)

■ 運営・管理段階に選定 (7件)

スポーツ庁

経済産業省

【京都府】

■ サンガスタジアム by KYOCERA
(京都府立京都スタジアム)
令和3年度選定 (亀岡市)



【佐賀県】

● SAGAアリーナ
令和2年度選定 (佐賀市)

【広島県】

● エディオンピースウイング広島
(広島サッカースタジアム)
令和6年度選定 (広島市)



【愛媛県】

● アシックス里山スタジアム
令和2年度選定 (今治市)



【福岡県】

■ ミクニワールドスタジアム
北九州 (北九州スタジアム)
令和2年度選定 (北九州市)



【長崎県】

● 長崎スタジアムシティ
令和5年度選定 (長崎市)



提供:長崎スタジアムシティ

【兵庫県】

■ ノエビアスタジアム神戸
(神戸市御崎公園球技場)
令和2年度選定 (神戸市)



■ GLION ARENA KOBE
令和7年度選定 (神戸市)



【大阪府】

■ 東大阪市花園ラグビー場
令和2年度選定 (東大阪市)



● YANMAR HANASAKA STADIUM (大阪市長居球技場)
令和2年度選定 (大阪市)



【青森県】

■ FLAT HACHINOHE
令和2年度選定 (八戸市)



【富山県】

● YKK AP ARENA
(富山市総合体育館)
令和6年度選定 (富山市)



【北海道】

● ES CON FIELD HOKKAIDO
令和2年度選定 (北広島市)



【群馬県】

● OPEN HOUSE ARENA OTA
(太田市総合体育館)
令和4年度選定 (太田市)



【東京都】

● TOYOTA ARENA TOKYO
令和4年度選定 (江東区)



【神奈川県】

● 横浜BUNTAI + 横浜武道館
令和2年度選定 (横浜市)



● 等々力緑地
球技専用スタジアム、
新とどろきアリーナ
令和5年度選定 (川崎市)



● Kawasaki Arena-City Project
令和5年度選定 (川崎市)



【愛知県】

● 三河安城交流拠点 (アリーナ)
令和7年度選定 (安城市)



● 愛知国際アリーナ (IGアリーナ)
令和3年度選定 (名古屋市)



【沖縄県】

■ 沖縄サントリーアリーナ (沖縄アリーナ)
令和4年度選定 (沖縄市)



(参考資料4)「スタジアム・アリーナ改革」から、「スポーツコンプレックス」の推進へ

- スタジアム・アリーナを施設単体で整備・運営するのではなく、他の施設やインフラ等とあわせて、これまで以上に周辺エリア全体のマネジメントに焦点を当てることを目的に、新たな概念として「スポーツコンプレックス」を提示。

スポーツコンプレックスの視点

1 複数種目・競技・施設の集約と連携強化

単一のスポーツ種目に閉じない異なるスポーツ種目・競技・施設の集約化と連携強化

2 スポーツと異分野の複合化と包括的運営

スポーツ分野と異分野（商業・飲食・宿泊・各種アミューズメントとの一体化等）との複合化による、より質の高いサービス提供の場へ
スポーツにとどまらない多目的利用

3 まちづくり政策との連携を明確に意識した改革

スポーツを通じてどのような地域社会をつくり上げるべきかをまちづくり政策に位置付けながら、まちづくりと連携し、地域の課題解決につなげる
施設にとどまらず、周辺のインフラ整備等も実施



スタジアム・アリーナをスポーツの潜在力を最大限発揮する舞台としながら、スポーツに閉じない多様な人々・企業等の交流機会を創り出し、年間を通じて多くの人々が集うまちなかでの賑わいの核とすることで、地域経済の活性化や都市のコンパクト化、地域への愛着・コミュニティ意識等の醸成、その他の地域・社会が直面する課題解決につなげていく。